

子どもにがんを伝える

改正がん対策基本法や新学習指導要領にもとづき、令和2年度から順次、学校におけるがん教育が全面实施されます。

このリーフレットでは、「子どもにがんを伝える」をテーマに、県立図書館所蔵資料や関連ウェブサイトをご紹介します。



知識の本

埼玉県立久喜図書館 自然科学・技術資料担当

久喜市下早見 85-5 Tel : 0480-21-2659

『「がん」になるってどんなこと?』(林和彦/編著 セブン&アイ出版 2017)

がん専門医が書いた、がんを正しく理解するための本。

「がんの数字」、実話を通して学ぶ「大切な人が「がん」になったら」、「がんを予防するために、できること」、「なぜ今「がん教育」が必要なのか」の4つにわけてがんについて学んでいきます。大人も、子どもも一緒に読みたい本。

『難病の子どもを知る本 白血病の子どもたち』

(稲沢潤子/文 大月書店 2000)

『シリーズいのちの授業2 いのちがおわるとき』

(種村エイ子/監修 ポプラ社 2002)

死ってなんだろう。死を見つめることで、生を見つめなおすきっかけに。がんの体験談から「いのち」を学ぶ。



学校での「がん教育」に役立つ図書

『学校におけるがん教育の考え方・進め方』(物部博文ほか/著 大修館書店 2018)

がん教育の第一人者が書いた「がん教育」の本。理論から各校種におけるがん教育の展開例から、がん教育の評価まで。

『埼玉県「がんの教育総合支援 事業」実施報告書』

(埼玉県教育委員会)

埼玉県で、平成27年度から文部科学省の委託を受けて実施している「がんの教育総合支援事業」の実施報告書。小学校・中学校・高等学校モデル校の「がん教育授業研究会」での指導案や「がん教育指導者研修会」の講演内容等を掲載している。ウェブサイトからのダウンロードも可能。

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2211/gan-houkokusyo.html> 埼玉県)

『がんの親をもつ子どもたちをサポートする本』(有賀悦子ほか/編 青海社 2017)

がん教育を受ける子どもたちの中には、身近な大人ががんに向きあっている、もしくは向きあっていた子どもが含まれているかもしれません。文部科学省も、がん教育を進めるにあたって配慮する事項としてそれらのことに触れています。この本は、支援にあたって知っておきたい事項を系統立ててまとめてあります。



物語・絵本で伝える

『**おかあさんだいじょうぶ？**』(乳がんの親とその子どものためのプロジェクト/作 小学館 2010)
乳がんの手術を終えたおかあさんは、いつもとちょっと違う。子どもの想いを描いた絵本。

『**ぼくのいのち**』(細谷亮太/作 岩崎書店 1999)

ぼく、小さいころ白血病だったんだって。自分と友達の闘病を通して、命の大切さに気付く。

『**チャーリー・ブラウンなぜなんだい？ ともだちがおもい病気になったとき**』

(チャールズ・M. シュルツ/作 細谷亮太/訳 岩崎書店 1991)

スタンフォード大学子ども病院の看護師さんが、チャールズ・M・シュルツ氏に書いた手紙がきっかけでこの本は生まれました。「がんとたたかっている幼い子どもたちのために、スヌーピーとその仲間の力をかしてほしい」。病気とたたかう子どもたちの気持ちを理解する大切さがわかる絵本。

『**おかあさんが乳がんになったの**』

(アビゲイル・アッカーマン/文・絵 エイドリアン・アッカーマン/文・絵 石風社 2007)

アメリカの11歳と9歳の姉妹が、母親が乳がんを患ったときの体験や思いに、絵をそえた本。



ノンフィクションで伝える

『**種まく子供たち 小児ガンを体験した七人の物語**』(佐藤律子/編 ポプラ社 2001)

「脳幹部グリオーマ(悪性の脳腫瘍)」、「急性リンパ性白血病」、「急性骨髄性白血病」、「神経芽細胞腫」、「骨膜肉腫」などの小児がんと闘った七人の物語。

『**あきらめないで 白血病と闘ったわたしの日々**』

(マルティナ・アマン/作 本田雅也/訳 徳間書店 2009)

小学校にあがってすぐ急性リンパ性白血病になり、長い闘病生活に耐え学校に復帰するものの、12歳で再発。二度の闘病を乗り越えた少女が、18歳の記念に書いた闘病記。



インターネット情報

《**がん教育**》(http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1370005.htm 文部科学省)

がん教育に関する情報をまとめた文部科学省のページ。がん教育推進のための教材、学校におけるがん教育の在り方について、外部講師を用いたがん教育ガイドライン、モデル校の実践例などを見ることができる。

《**がん教育**》(<http://www.jcancer.jp/cancer-education/> 日本対がん協会)

映像教材、テキスト教材、参考資料ほか、がん教育に役立つコンテンツが充実したウェブサイト。

埼玉県立久喜図書館では、「**がん情報コーナー**」を常設し、がんの基礎知識から各種がんに関する図書約500冊に加え、パンフレット類や患者会情報など「がん」に関する総合的な情報の提供に努めています。

このリーフレットの他にも、がん関連資料リスト「がん、もっと知りたい」「AYA世代のがんについて知る」等各種がんに関するリストも作成しています。

(<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/health/cancer.html>)

